

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075000168
法人名	有限会社 日新商会
事業所名	グループホーム みずまき
所在地 (電話番号)	福岡県遠賀郡水巻町吉田西3丁目15-11 (電話) 093-202-8142

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年1月16日	評価確定日	平成20年2月5日

【情報提供票より】(平成19年12月18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年10月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	6人, 非常勤 4人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造モルタル造り 2階建ての1階部分
------	-----------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	無	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合 償却の有無	期間4年	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	水巻共立病院 / ひだか歯科医院 / 梶原歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム「みずまき」は、道路を挟んで協力医療機関「水巻共立病院」が立地し、入居者のほとんどが協力医療機関の医者を主治医としているため、医療との連携が高く、状態変化などに緊急に対応できる体制がある。グループホームは、家庭的な雰囲気を大切に、入居者自身の力が十分に発揮できるようにセンター方式を導入している。毎月、担当職員が、入居者の生活状況・身体状況などについて、家族に手紙を出しており、家族からは「ホームでの生活状況がよくわかります」と感謝されたり、「その手紙をコピーして親戚に郵送しています」と言われる家族などもあり、とても好評を得ている。グループホームは静かな住宅街にあり、民家改造型の施設である。開設して6年目になるため、入居者の身体的機能も低下しつつあり、入浴などの身体介護に職員の負担が大きくなってきており、今後の課題となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回調査では、温湿度管理や職員の研修が課題となっていたので、温湿度管理については、温湿度計を設置している。また、職員の研修については、行政などが行う研修会に積極的に参加し、内部ではミーティングを行い、職員の資質の向上に努めている。地域との連携については、ホームの行事の案内を地域に掲示し、地域の方々に理解してもらおうと共に参加を呼びかけている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価をもとに、記録の改善に努めた。今回の自己評価についても職員全員で取り組み、評価結果をふまえ改善に努めていきたいと考えている。</p>
	<p>運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、運営状況の報告及び意見交換を行い、そこで出された意見を活かすように努めている。運営推進委員は自治会長・行政職員・家族が参加している。家族の意見や意向を把握する場としても有意義な機会となっている。今後は、さらにグループホームの理解を育み、地域との連携を高めるために、地域の方々に参加を呼びかけるなど期待したい。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には毎月、「グループホームみずまき たより」として行事や運営推進会議の開催のお知らせなどを掲載している。入居者個別の生活状況は担当職員が手紙で家族に報告し、とても喜ばれている。玄関には相談・苦情窓口の案内や意見箱を設置している。また、面会時や運営推進会議の際に家族の意見を聞き、出された意見や要望は運営に反映していくように努めている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、清掃活動に参加したり、行事に参加している。特に地域の祭りである子ども神輿がグループホームを訪問した際には、入居者はとても喜ばれた。グループホームの行事などは地域の方々に参加していただくために、近くのスーパーにチラシを貼らせてもらうなどPRを行い、参加を呼びかけている。月に1回はボランティアの方に来てもらい、話し相手やゲームなどに参加してもらっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念に「利用者の有する能力に応じて可能な限り散歩・買い物等、地域の中で自立した生活を営むことができるよう支援します」を掲げ、行きつけの美容院や買い物・散歩など地域の中で自立した生活が営めるように支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を職員が共有できるよう居間に掲げている。また、月1回のミーティングでは、理念について話し合い、入居者のできることは見守りを主としケアしていくなど日々のケアの中で理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、清掃活動に参加したり、行事に参加している。特に地域の祭りである子ども御輿がグループホームを訪問した際には、入居者はとても喜ばれた。グループホームの行事などは地域の方々に参加していただくために、近くのスーパーにチラシを貼らせてもらうなどPRを行い、参加を呼びかけている。月に1回はボランティアの方に来てもらい、話し相手やゲームなどに参加してもらっている。		
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回、評価をもとに温湿度管理や職員研修の充実・記録の改善などに取り組んだ。今回の評価の結果をふまえ、全職員で改善に努めていきたいと考えている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催し、運営状況の報告及び意見交換を行い、そこで出された意見を活かすように努めている。運営推進委員は自治会長・行政職員・家族が参加している。家族の意見や意向を把握する場としても有意義な機会となっている。今後は、さらにグループホームの理解を育み、地域との連携を高めるために、地域の多くの方々に参加を呼びかけるなど期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者が出席し、意見交換や情報交換を行っている。市町村より派遣する介護相談員を月1回受け入れている実績がある。今後は、市町村担当者にグループホームの現状を伝えるなど日常的な連携を高めることを期待したい。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	現在のところ、成年後見制度を利用している方はいないが、入居時には制度について説明を行っている。職員は研修会に参加したり、勉強会を開き理解を深めるように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、担当職員が入居者の生活状況を手紙で知らせ好評を得ている。面会時には入居者の様子を随時伝えている。また、預かり金の収支報告についても確認サインをもらっている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議で家族の意見を聞き、運営に反映していくように努めている。苦情相談・意見箱の設置も行っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動などはないが、常勤職員が離職する場合は、入居者のダメージを防ぐために、在職中に職員を増やして、なじみの関係が作れるように支援している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用に関しては特に採用条件はない。採用された職員は、得意分野(料理や園芸など)を主体的に活かせるように取り組み、職員のスキルアップのための研修も参加できるように勤務ローテーションの調整を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	運営理念に「利用者の人格を尊重し、利用者の立場に立ったサービス提供に努めます」を掲げ、日々のケアの中で、理念に基づいたケアができるように全職員で取り組んでいる。また、外部研修に参加したり、内部研修も行い、入居者の立場に立った人権の尊重の理解を育むように努めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	地域で行われている介護研修に参加している。月1回のミーティングでは研修会の報告を行い伝達研修を行っている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	町内には同業者のネットワークはないが、時々同業者の訪問を受けることがあり、その際、情報交換を行っている。		交流があるグループホームへ積極的に訪問し、多様な情報交換・人的交流などを行うことを期待したい。
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	在宅での生活を十分に把握し、サービスを開始するようにしている。入居時には家族に面会を多くして頂き、徐々になじんでいただけるように工夫し家族と相談しながら関係づくりを行っている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	センター方式でアセスメントを行い、入居者の有する能力に応じて、料理・洗濯物干し・野菜作りなど、入居者の得意なことを教えていただき、共有する場面を多く持つようにしている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	センター方式を利用して、生活歴や入居者の意向の把握に努めている。また、日々の会話や表情から入居者の気持ちを把握するように努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	入居者がどのような暮らしを望んでいるのか、日頃の会話や意見を聞き、介護計画に反映していくように努めている。		センター方式を採用しているので、日々の気づきなど職員全員で意見交換・カンファレンスなどを行い、介護計画に反映していくことが望まれる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	毎月のモニタリングや見直しを行い、変化があればその都度アセスメントを行い、新たな介護計画を作成している。		身体機能が低下する中で、入居者・家族・PTなどの関係者との話し合いを持ち、現状に即した、介護計画の作成が望まれる。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	協力医療機関への受診の付き添い、リハビリへの送迎など職員が柔軟に対応している。花見など外出の機会を作るように努め、その際、家族も一緒に誘うなど柔軟な取り組みを行っている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	協力医療機関を通じての入居が多く、主治医が協力医療機関の場合が多いが、他の医療機関を希望される方は希望される医療機関をかかりつけ医にもらい、家族や入居者の希望にそうよう柔軟に対応している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合は家族や主治医と連携を取りながら対応している。終末期については看護師を配置していないのでターミナルケアは実施していない。今後は、入居者や家族の意向にそって、終末期に対応できる体制づくりなど関係者との話し合いを行いながら、すすめていくことが求められる。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	運営理念に掲げているように、人格を尊重した言葉かけや対応に配慮している。また、個人情報についても書類の保管・管理をきちんと行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	入居者の気持ちを尊重し、入居者のペースに合わせた暮らしが維持・継続できるように支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	協力医療機関の栄養士により献立を作成してもらい、職員と入居者が共に料理をしている。日曜日は入居者が希望する献立を取り入れ、食事を楽しみにしていたできるように取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入浴日や入浴時間は一応決めているが、入居者の希望や体調に合わせて、できるだけ希望を尊重し支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	アセスメントや日頃の会話から、入居者が得意とすることを把握し、畑作りや料理など入居者の力が発揮できるように支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	散歩や週2回の買い物、ゴミ捨てなど職員と共に出かけている。希望に応じて近くの美容院を利用するなど支援している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	常に職員は、入居者の行動に気を配り、見守りや声かけを行い、玄関には鍵をかけないようにしている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	2ヶ月に1回、避難訓練を実施している。今後は、協力医療機関や地域の参加協力をお願いしていきたいと考えている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	食事や水分の摂取状況を毎日チェックし、飲水の少ない入居者については、小さいコップで飲んでいただいたり、こまめに回数を増やすなどの工夫を行い、水分摂取を促している。栄養バランスは栄養士による献立のため、品数なども多くバランスが取れている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	自然の採光が入るよう、窓やカーテンの開閉に工夫している。また、気の合う仲間とおしゃべりを楽しむことができるように、テーブルの配置に工夫がある。季節感を感じていただけるように、季節の花を飾り、家庭的な雰囲気づくりを行っている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	グループホームではペットのみを準備している。その他は自宅で使用していた家具や写真などを持ち込んでいただき、自宅に近い雰囲気づくりの中で、居心地良く暮らしていただけるように取り組んでいる。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			